

ニュースレター No.82

会長挨拶

一般社団法人 福岡県助産師会 会長 佐藤 香代



雨後の緑がいつそう色濃く感じられる昨今、会員の皆さまにはご活躍のこととお喜び申し上げます。

2023年6月3日（土）、福岡県助産師会通常総会を対面で行い、2022年度決算報告および役員報酬改定が承認されました。1つ1つの議案について活発な議論が展開され、意義ある総会であったと思います。

2022年度は、COVID-19の流行が続く中、理事会は全会対面会議を行いました。研修会はWEBが中心ではありますが、一部ハイブリットや対面を取り入れてきました。時代のニーズに沿ったテーマ設定と日本助産師会の研修システムをいち早く導入することにより、全国から多数の申し込みがあり、成果を上げることができました。委託事業は順調な伸びを遂げています。

2023年度の活動方針は以下の通りで、これまでの進捗状況も含め報告します。

1. 組織体制の見直しを行い、事業の活性化を図る

事務体制の強化とともに、6月から専任の税理士との契約を結び、安定し健全な経営管理を目指します。地区組織の整備として、会員数の減少による遠賀地区をなくし、宗像地区に合流しました。よって、地区は7つとなりました。

2. 地域に根ざした助産活動を推進し、周知活動につとめる

1) 妊娠・出産包括支援事業の拡大・推進

現在、産後ケア事業は拡大し、市町村との契約は16に増加しました。しかし、その仕組みに関しては改善すべき点が多々あります。国や県、市町村と引き続き粘り強い交渉を続けていきます。

産後ケア事業は、まだまだ対象の母親や一般の人々に浸透しているとは言い難い状況です。昨年はNHKやTNCの「記者のチカラ」で、福岡県助産師会の産後ケアの訪問型やデイケアの様子を取材していただき、産後ケアの大切さを視聴者に訴えました。今年の6月には同じくTNCの「記者のチカラ」で続編が放映され、大いに注目を浴びました。新しく契約を結んだ市町の広報誌にも会員や会長のコメントが掲載されました。また、4月には九州交響楽団主催のマタニティコンサート（1000名参加）に「助産師相談コーナー」を設置するとともに、演奏の合間に助産師の講話を入れていただきました。参加者には、福岡県助産師会のクリアファイルと産後ケアのチラシを配付しました。助産師相談コーナーや助産師へのインタビューもテレビで放映されています。「はじめてばこ」に入れるチラシは今後も続行し、幅広い広報活動を展開していきます。

現在、妊娠・出産包括支援事業の一つである妊婦・子育て家庭への伴走型相談支援が始まっています。しかし、この事業には多職種がピンポイントで関わっており、妊娠中から一貫して同じ専門職が母親に関わる仕組みにはなっていません。妊娠中に面接した助産師が産後も引き続き母子に伴走できる仕組み＝妊娠・出産包括支援制度を作る必要があります。これに関しても、国や県、市町村と交渉を進めていきます。

2) 妊娠・出産にかかわる相談・教室及び女性の健康推進のための事業の活発化を図る

現在、子育て・女性健康支援センターの事業や地区活動で、プレママ教室、マザークラス、学校での思春期教育、電話相談等を行っており、今後も拡大の予定です。

今後は、ホームページやSNSでもいち早く情報発信ができるよう体制を整えていきます。

3. 社会の変化に対応した専門的研修の実施

助産道研修を始め、地区や委員会、専門部会の研修も活発に行われています。時代のニーズに沿った興味深いテーマ、最先端の知識を得るテーマで構成されています。会員の皆さまは、定期的にホームページに目を通し、見落としがないようお願いします。

4. 会館整備に着手する

本年度の総会では、会館建て替えの進捗状況を詳細に説明しました。昨年の総会で20年以上続いている会館の議論にやっと決着が付き、現地での建て替えが決定しました。早速6月、敷地内にあるモデルハウスの明け渡しとその条件について協議したい旨、顧問弁護士より先方の代理人に文書で送付しました。8月には、新会長の元で建て替え計画を再始動した経緯の説明、10月には会館構想案を提示し理解を得たいと申し出ましたが、退去の意思はないという返事でした。

ワーキンググループで将来ビジョンを考える中、9階建てのワンフロアでは活動は困難であるとの結論に至りました。24時間体制の産前・産後ケアセンターの設置や、次世代の親づくり教育支援、多世代交流の場、さまざまな女性や母子の支援事業（性教育、マザークラス、ベビーマッサージ、母乳ケアと教育、食育等）、次世代（後継者）の教育・研究機能を持つ会館を一刻も早く建て活動したい、母子を救いたいという思いから、その後数回交渉しましたが、残念ながら聞き届けていただけませんでした。福岡県助産師会の活動が、今後の母子の幸福に多くの影響を与えることを理解していただけるよう、引き続き交渉を行う予定です。

ポストコロナの時代を迎え、今後は活動の幅を拡大していきます。引き続き組織改革を行い、かつ外部団体との連携を深め、多くの人々に助産師会の活動を知っていただけるよう広報の強化に努めます。母子保健を軸に、すべてのライフステージにかかわる助産師としての専門性に裏付けられた活動の発展を推進していきます。

常任理事挨拶

副会長 吉田 静

福岡県助産師会会員の皆さま、こんにちは。

一般社団法人福岡県助産師会副会長の2年目を務めさせていただきます吉田静です。どうぞよろしく願いいたします。1年目は右も左も分からないままに走り出し、皆さまにご指導いただきながらあっという間に過ぎ去りました。今年は昨年の反省を活かして何事にも落ち着いて計画的に取り組みます。長く続いたCOVID-19感染が減少し、社会は回復傾向にあります。個人の生活様式も大きく変わりました。今年度は昨年度から引き続く会館整備や産前産後ケアの他、感染対策に留意しつつ会員皆さまとの顔がみえる交流も積極的に企画、実践したいと思います。ぜひ皆さまからのアイデア、ご意見をお待ちしています！

残り1年どうぞよろしく願いいたします。

書記 阿部 聖子

書記2期目の2年目を迎え、私事ではありますが、この春より、看護教育の現場から地域の行政へと転職しました。時を同じくして、こども家庭庁が発足し、早速設置された子ども家庭センターが職場とな

りました。

昨今の社会背景として、深刻な少子化や、コロナ禍で加速した児童虐待、いじめ問題、貧困問題、親の子育て負担の増加等、母子とその家族の生活の場に接する中で、その現状を目の当たりにする日々です。同時に、母親世代の価値観の変化も体感し、助産師として今自分に何ができるのか、改めて今後の助産師活動を考えています。

そして、それは助産師会活動にも繋がります。皆様のご意見もどうぞお聞かせください。気持ち新たに頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

会計 山口 美津枝

2023年度の通常総会は大変有意義で温かい総会となりました。

これもひとえに、総会の準備に携わって頂いた理事の皆様方、運営にご協力いただいた議長団の皆様。お忙しい中、会館へ足を運んで頂いた会員皆様方のご協力の賜物であると感謝申し上げます。会計報告をした通り2022年度も会員皆様方のご協力により、会の収益は上がっております。当然のことながら支出も増え、会館建替えでは大金が動きます。会の大切な財産の管理や収益の有効活用において福岡県助産師会の未来を見据えた会計を行うには、やはりプロの目で管理していただく必要があると判断し、今年度から税理士事務所と年間契約を結ぶこととなりました。担当税理士さんと共に2期目の後半に臨みます。今年度もどうぞよろしく願いいたします。

三部会長挨拶

勤務助産師部会長 安河内 静子

勤務部会長として1年が経過しました。なかなか顔の見える交流会の開催の実現に至ってはおりませんが、研修会を通してお会いできると幸いです。2022年度は勤務部会の皆様のお仕事に役立つテーマとして、メデラ(株)のご協力を得て「分娩時に医療介入があっても母乳育児の成功へつながる支援」を開催しました。現在録画分をオンデマンド研修として受付中です。また7月1日(土)には第2弾として、「直接授乳ができない場合、タイムリーな乳汁来潮や適切な母乳分泌確立につながる搾乳支援方法とは～NICUの母親から、産後早期に一時的な搾乳支援が必要な正期産の母親まで～」を開催します。こちらも録画後に配信予定です。ご参加をお待ちしております。今年度もどうぞよろしく願いいたします。

助産所部会長 田嶋 昌枝

昨年度から助産所部会長・安全対策委員会会長を務めさせていただいております。

助産師会員の皆様、常に女性の傍らに寄り添い、妊娠から出産・産後まで切れ目ない支援を助産師の手でという思いで活動しておられると思えます。

COVID-19が5月から5類に移行しました。が私達の生活や社会がCOVID-19発生以前に完全に元に戻ることはないでしょう。アフターコロナの今を生きる為に世の中の変化を受け入れ、しなやかに自分も変えていく柔軟な力が助産師にも必要とされると思えます。

助産所部会では開業助産師の嘱託医契約問題、3部会合同では事故対応フローチャート作成・会員周知、産後ケア事業の安全対策等について引き続き活動致します。会員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

保健指導部会長 松山 まどか

コロナ問題もおおよそ終息をむかえ、日常が戻ってまいりました。この数年は、いろいろなことがコロナのおかげで変化いたしました。人が変えることのできなかったことをウイルスが変えてしまいまし

た。よくも悪くも この変化の中でまた助産師としての様々な課題が見えてきたのではないかと思います。保健指導中心の開業者も、問題の解決や新たな道への挑戦を考えなければならない時代となりました。皆様、それぞれが努力と研鑽を重ねていただき、母子保健向上のためご尽力ください。

2022年度表彰

受賞された皆様、おめでとうございます！

【医療功労賞中央表彰】

佐藤 香代 氏

【愛育会会長表彰】

寺田 恵子 氏

【母子保健奨励賞】

木附 和歌子 氏 河村 奈央子 氏

【福岡県母子保健家族計画事業功労者表彰】

後藤 智子 氏 重松 美和 氏

【福岡県公衆衛生功労者知事表彰】

福澤 雪子 氏 井手 教子 氏

【日本家族計画協会 会長表彰】

松本 由美子 氏



第 69 回 福岡県公衆衛生大会にて
福澤氏、佐藤会長、井手氏

公益社団法人 日本助産師会 第 96 回 通常総会

助産所部会長 田嶋 昌枝

今年度の通常総会は 3 年振りに対面で、5 月 26 日（金）東京都千代田区 日本教育会館にて開催されました。福岡県助産師会の代表として佐藤会長を筆頭に理事 3 名が代議員として出席いたしました。

総会での報告事項は 2022 年度事業報告、2023 年度事業計画と収支予算についてでした。次に審議事項におきましては 2022 年度決算報告及び監査報告が審議され、代議員定数 126 名、うち 1 名当日欠席、出席代議員 125 名全員が審議事項全てを承認いたしました。また 2023 年度 理事、監事選挙も行われ、厳正なる選挙の結果、高田昌代会長を筆頭に新役員が選出されました。総会内容・選挙結果につきましては日本助産師会ホームページの会員マイページに総会資料が掲載されておりますのでご参照ください。

2023 年度事業計画の重点目標として、助産師のケアの質向上のために、①的確なリスクの判別と安全な出産ケアの確保、②妊娠中から産後までの切れ目ない支援、③女性の生涯にわたる健康づくり支援を挙げ、具体策として開業助産師ラダー制度の推進、助産業務ガイドライン 2024 の検討開始、周産期母子を対象とした訪問看護ステーション実務者研修計画・施行等々、事業計画は多岐にわたります。今後の助産師会活動に大いに期待いたします。

一般社団法人 福岡県助産師会 特別講演

勤務助産師部会長 安河内 静子

通常総会に先立ち、OVER THE RAINBOW 代表の荒牧明楽（あきら）先生をお迎えし、「性の多様性と尊厳」～助産師の役割～について特別講演会が開催されました。LGBTQ＝性的マイノリティ（性的少数者）の当事者の方々は11人に1人の割合で存在しています。しかし、カミングアウトしている人は約4割でありその背景には非当事者の何気ない言葉に傷つき、生きづらさを感じながら、登校拒否やうつ、自傷/自殺など精神状態の不安定さ、睡眠障害、排泄障害などの健康上のリスクが隠れていることなど、改めて学びました。私たち助産師もセクシャリティを正しく理解できているか、性の専門家としての自覚を持っているか、アライ＝ALLY（同盟、支援者）として何が出来るかなど考える機会となりました。



2023年度 研修会企画のお知らせ

教育委員長 松藤 美由紀

今年度も教育委員長を務めさせていただきます松藤美由紀です。昨年度はたくさんの方にオンデマンド研修を受講いただきありがとうございました。今年度も、8つの研修会を準備しています。そのうちの1研修は3年ぶりに福岡県助産師会館での対面研修になります。そのほかの7研修につきましては、昨年度同様オンデマンドでの研修となります。近々詳細をHPに掲載いたしますのでご確認ください。今年度もたくさんのお申し込みをお待ちしています。



福岡県における産後ケアの現状と課題

妊娠・出産包括支援委員長 豊田 晴子

4月より16市町村の産後ケア事業が一斉に動き出しました。現在49施設が、福岡県助産師会産後ケア事業受託施設として活躍中です。

新事業だけでも4月と5月で113件の実績報告があがっています。全ての自治体を見ますと今年度に入りひと月だけでも一自治体で100件を超えるところも出ています。それだけ地域で助産師の活躍の場が増えたことでもあります。しかしながら課題は山積みです。

利用者目線で考えますと、産後ケア（アウトリーチ）の自己負担額がワンコインでご利用頂ける自治体もあるかと思えば、4,000円の自治体もあります。助産師が行う実施項目は一緒です。同じ様に命がけのお産をされたにもかかわらず住む地域によって支援に差があり過ぎる。

確かに自己負担金が1,000円以下の方が利用率は高いですが、だからといって4,000円の自治体の利用がないわけでもなく、4月より5月の方が増加傾向にあります。多くの方々が産後ケアを利用したいと思いつつも3,000円以上になると「夫に相談します。」の声をよく耳にします。

自治体によりスタート時期は異なりますが、「出産・子育て応援交付金」が現金ではなく、産前産後ケアとして利用できるクーポン券であれば家計に負担をかけることなく利用者の意思で自由に使用でき産後の心と体をいたわる生きた交付金となるのではないかと思えるのは私だけでしょうか。

もう一つの課題は、各自治体により産後ケア料金の単価が違う事です。地域によっての格差の違いです。この地域の助産師は、例えば月間30件の産後ケアを実施しているが、他の地域の15件実施している金額と同額である。

産後ケア事業を受託する為の経費、産後ケアを実施する為の保険料、産後ケアを実施する為の研修費用、交通費、駐車場、或いはデイケア、ショートステイに係る経費は明らかに上回る。国は産後ケア事業に対し多額の予算を付けているが、市町村と国の按分が1対1である以上は、市町村に財源がなければどんなに働きかけても期待できないのではないかと。諦めではなく働きかける矛先が違うのではと思えますが、皆様は、どうお考えになりますか？ご意見をお待ちしています。



2回目の産後ケア取材：決意したこと

母乳と育児の相談室iibasho 石橋 美幸

昨年、福岡県助産師会佐藤会長の紹介で TNC より産後ケアの取材を受けました。リポーターがなんと妊婦さん！その出会いから出産後早期に産後ケアへ。再度の取材の機会を頂き、産後ケアを皆に知ってもらいたい！気軽に利用してほしい！という思いを届けたいと願い、取材に臨みました。ご本人にとって3回目の産後ケアは取材日となりました。前回までの産後ケアでは出産の振り返り、母乳育児の確立、育児手技の獲得を主にアプローチし、今回は児が寝てくれず、母も疲労困憊という声から睡眠できる体と環境を主にアプローチしました。放送後は、多くの方から見ました！共感し、涙がでました！多くの方に産後ケアを知ってもらいたい！産後も助産師と出会ってほしい！との嬉しい声を頂きました。何より一番嬉しかったのは、取材後、児の睡眠が整い、児への愛情が増したという母本人の声でした。

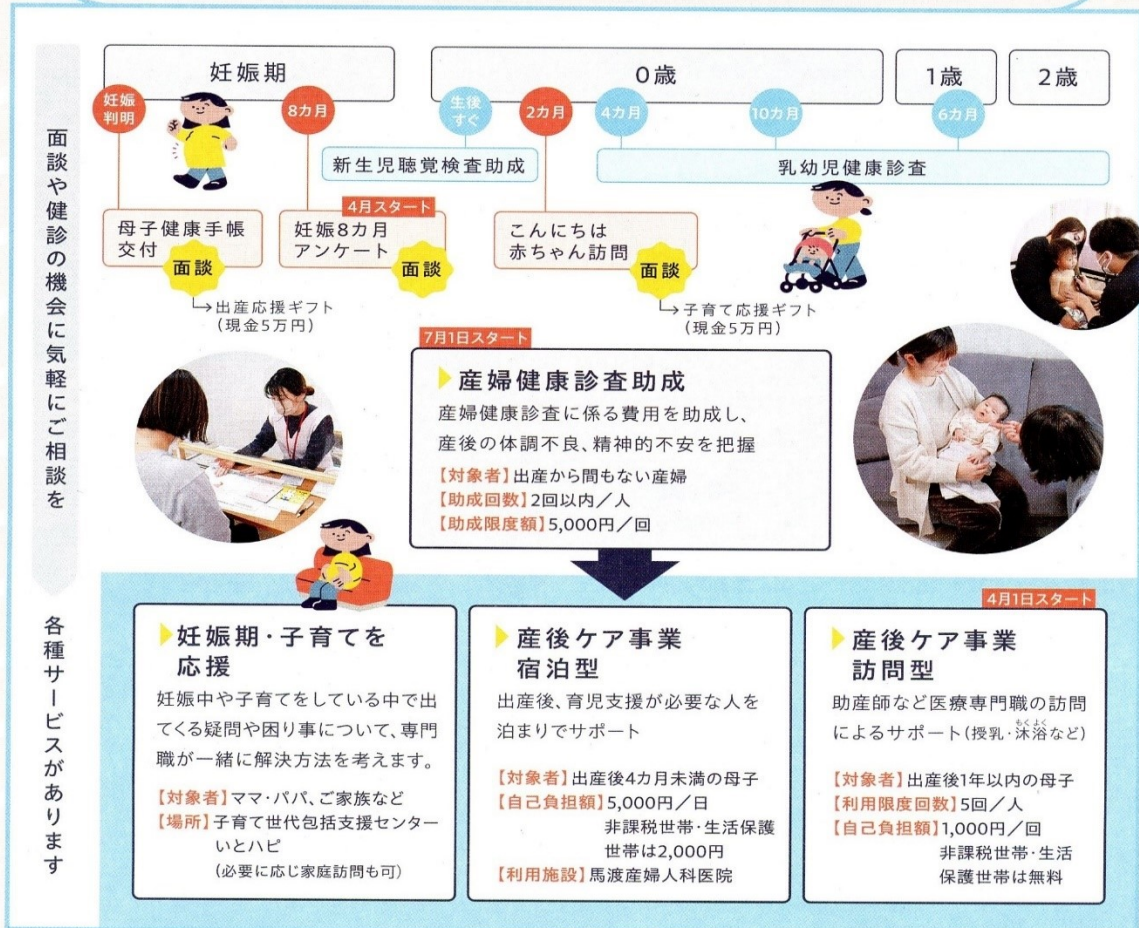
i i b a s h oでは、現在、通所、訪問で月に50件超の産後ケアを行っています。授乳が上手くいかない、泣き方が激しい、寝てくれない、発達の遅れという困りごとは増加の一途。このままでは楽に母乳育児を楽しむ母子が激減し、産後うつや虐待が増加する状況が懸念されます。今、学校で学んだ知識や技術だけでは解決できない現象が起きています。産後ケアに関わる助産師は、単にその場その時の母子の休息だけではなく、母子の困りごとを解決に導き、今日からより安心して過ごせる産後ケアを目指していかなければ！と痛感しています。産後ケアがブームではなく、定着できるか否かは私たちの助産師力にかかっています。取材を経て、私もさらに学びや感性を深め、求めて頂ける助産師となれるよう精進していこうと決意しました。

取材の機会を頂きご協力頂いた皆様、ご覧いただいた皆様、佐藤会長をはじめ全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。



糸島市の広報紙 4月号に掲載されました

糸島市子育て世代包括支援センター「いとハピ」をご利用ください



一般社団法人福岡県助産師会
会長 佐藤 香代 さん

助産師はお母さんの母親的存在
大いに頼って甘えても大丈夫!

初めて子育てをする母親は、全てが初めての体験で不安がいっぱいです。特に実家などの支援が受けられず、自宅で赤ちゃんに向き合う人は、ひとりぼっちの「孤育て」になりがちです。

以前は隣近所のおばちゃん、おばあちゃんが「どうね？」などと声掛けをして相談に乗ってくれました。こうして誰かの手助けを受けて子育てするのが人間の本来あるべき姿。子育てにおいて、誰かの手を借りることは決して恥ずかしいことではなく、実はとても重要なことです。しかし今は、初心者が一人で大海に投げ出された状態。「抱っこしているのに、なぜ泣きやまないの?」どうして母乳を飲んでくれないの?と、戸惑うのは当たり前のことです。

産後ケア事業(訪問型)では、福岡県助産師会の助産師が自宅を訪問。実際に授乳の様子(赤ちゃんの姿勢や乳頭の含み方など)を見て、相談に乗ります。助産師は、お母さんの母親的存在。どんな些細なことでも頼って、甘えていいのです。我慢せず、気軽に支援サービスを利用して「子育てって楽しい!」と、心から思ってくれることを願っています。

九響マタニティコンサート 2023

福岡地区理事 高橋 よし恵

2023年4月23日アクロス福岡イベントホールにて、『九響マタニティコンサート 2023 パパとママとベビーに贈る0歳からのオーケストラ』が行われました。今年から設置した「助産師相談コーナー」には、多くの妊娠中のご夫婦や、子ども連れのご家族が立ち寄りました。相談に応じたり、妊婦体験、赤ちゃん人形の抱っこ体験、胎児模型の展示を行い、大変好評でした。コンサート中には佐藤会長が、胎響のことや一つの命が誕生する奇跡のお話をされ、TVの取材も入り、後日TNC「記者のチカラ」で放送され、多くの方に助産師を知ってもらう良い機会となりました。

※九響…九州交響楽団



演奏の合間の講話



助産師相談コーナー

第51回 医療功労賞中央表彰授与 天皇・皇后陛下への拝謁

福岡県助産師会 会長 佐藤 香代

このたび、第51回医療功労賞中央表彰を受賞いたしました。

医療功労賞とは、へき地や離島、被災地など、厳しい環境のもとで、地域に密着した活動を続けてきた医療福祉関係者を顕彰する事業で、1972年に創設されました。

全国8ブロックごとに表彰される「地方表彰」は、63名の候補者の中から35名が選ばれます。九州の地方表彰者は4名（医師3名、助産師1名）でした。2023年1月31日、九州地方の表彰式が西鉄グランドホテルで行われました。九州厚生局長から表彰状と記念品の贈呈があり、私は受賞者を代表してお礼の言葉を述べました。受賞理由は、新しい母科学級の手法の開発や、学生教育、女性を支援する活動が評価されたとのことでしたが、教育・研究をメインに行ってきた私にとって受賞は全く予想しておらず、知らせを受けた際には大変驚きました。しかし今は大変光栄だと感じています。この賞は一個人の力で得られたものではなく、多くの助産師や助産師学生、妊婦、赤ちゃんの力によって得られたものです。今まで関わってくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。受賞をきっかけに、助産師の存在がもっと広く知れ渡ってほしいと感じました。

2月には中央表彰の10人に選ばれたとの通知を受けました。3月24日、東京のホテルニューオータニで中央表彰の表彰式が行われ、厚生労働大臣賞と記念品、副賞が授与されました。その後、皇居の御所において、天皇・皇后両陛下に拝謁し、お言葉を賜りました。まず、皇后さまが「助産師の方ですね。新しい母科学級を開発されたということですが、それはどのような内容なのですか？」と話しかけてください

ました。＜従来の講義中心の知識伝達型教育ではなく、妊婦がからだの気づきを大切にすることで、産み育てる力を育むクラスです。妊娠・出産がいかに幸せで楽しいかということを実感してもらえるように組み立てています。その結果、妊婦は自然に母親になることを受け入れ、子どもへの愛情が深まります。現在までに 1000 人の妊婦が参加しましたが、皆さん、心から子育てを楽しんでいます。＞とお話しました。皇后さまは深くうなずき、「それはすばらしい活動ですね。」とおっしゃいました。陛下は、「今、助産師になる人は少ないのですか？」とお尋ねになりました。＜少子化の時代ですが、助産師になりたい学生は増えています。看護学生時代に、感動的な出産のシーンや母子の幸せそうな映像を見て、また、助産師の地域での活動の魅力を伝えることで、助産師に憧れを抱くようです。＞天皇陛下は「そうなのですね。大切なお仕事ですからね」とうなずかれました。＜助産師は、出産に関わるのみでなく、小中学生のいのちの教育や、妊娠・出産、産後のケア、さらには更年期・老年期まで、女性の一生に寄り添い支える仕事です。これからもいただいた賞を励みに、女性の幸福を願い活動していきたいと思います。＞と答えました。お二人はうなずかれ、最後に陛下が「これからもますますお体を大切にしてお活躍ください。」と労わってくださいました。この様子はフジテレビの「皇室ご一家」という朝の番組で放送されました。

今回、貴重な経験をさせていただきました。支えてくださったすべての皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。



【第 51 回医療功労賞中央表彰受賞祝賀会のご案内】

当会の佐藤香代会長がこのたび女性の健康と幸福を追究する地域活動への貢献が認められ、第 51 回医療功労賞中央表彰を受賞されました。つきましては受賞のご栄誉をお祝いいたしまして福岡県助産師会主催で祝賀の宴を開催したいと存じます。ご多用のところ誠に恐縮に存じますが、なにとぞご来臨賜りますようご案内申し上げます。

【日時】 2023 年 7 月 30 日（日） 12 時 30 分より 15 時 30 分 受付開始 11 時 30 分より

【場所】 オリエンタルホテル福岡博多ステーション 3 階 YAMAKASA の間

〒812-0012 福岡県福岡市博多区博多駅中央街 4-23 (092-461-0170)

* JR 博多駅筑紫口より徒歩 2 分

【会費】 1 万 5000 円

【申込】 下記の QR コードからお願い申し上げます。



秋野公造財務副大臣に福岡県助産師会から要望書を提出しました

福岡県助産師会 会長 佐藤 香代

2023年5月26日、日本助産師会総会終了後、秋野公造財務副大臣へ福岡県助産師会から要望書を提出してきました。日本助産師会総会に出席した田嶋昌枝理事、田中輝美理事と日本助産師会会長の表彰を受けた助産院マミータ 田中みちえ院長とともに訪問しました。助産師会の会員でもある岡本陽子宗像市議、中村晶代福津市議同席のもと、念願の面会がかないました。心からお礼申し上げます。

要望書の内容は次の3点です。

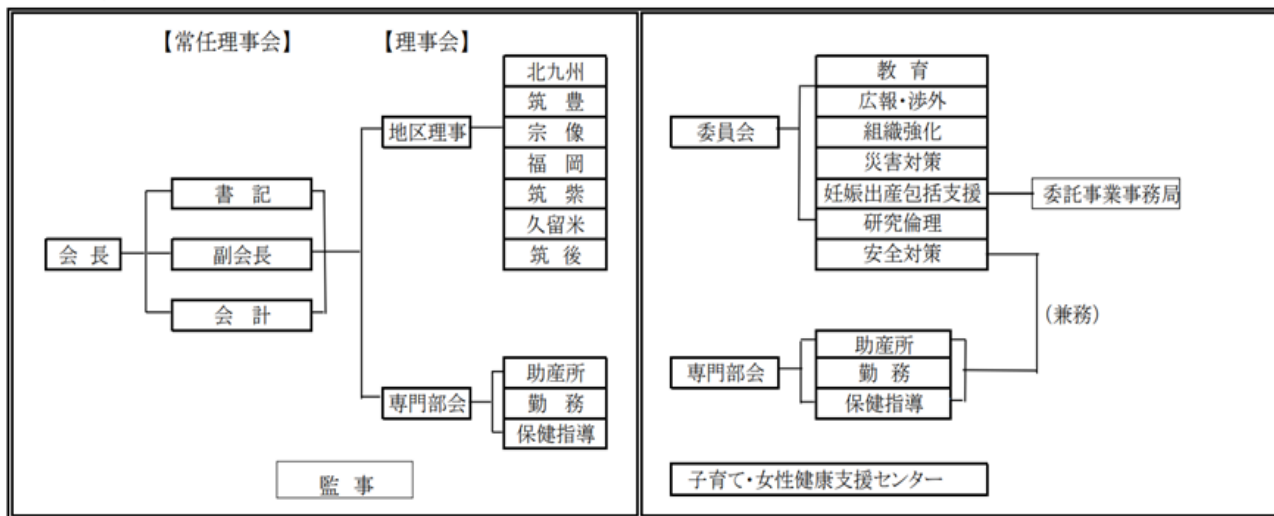
1. 助産所における嘱託医の確保
開業助産師が母子に丁寧に関わることができるよう、嘱託医や救急搬送システム、医療機関との連携が十分に構築され、どの地域においても、妊婦が望む場所で診療が受けられるシステムの整備が成されることを要望する。
2. 産後ケア事業における助産師の役割強化
委託費を適正水準に引き上げ、委託費用の国の補助率の拡大を要望する。
3. 伴走型相談支援における助産師の役割強化
妊娠中から産後まで一貫して母子を支援する助産師の確保が行われ伴走型相談支援が十分行えるシステムを要望する。

秋野副大臣は、私たちの訴えに丁寧に耳を傾けてくださいました。医師であり、医療事情に精通なさっているため、活発な議論が交わされました。福岡で議員との勉強会を行うこと、県への要望をまとめ議員とともに活動すること、さらに、仕組み作りの大切さを述べ、福岡モデルを作成することを提案していただきました。面会時間は15分の予定でしたが、気が付くと50分を経過し、秘書の方も驚いていらっしゃいました。熱い助産師たちの思いが届いたのでしょうか。多くの示唆を与えていただき、感謝しています。これからの展開が楽しみです！今後の秋野副大臣のご活躍を心からお祈りしています。



一般社団法人 福岡県助産師会 組織図

福岡県助産師会・組織図



2023年度 役員一覧

●常任理事・監事

役職	氏名
会長	佐藤 香代
副会長	吉田 静
書記	阿部 聖子
会計	山口美津枝
監事	田中 啓子
	野中 清子

●地区理事

地区	氏名
北九州地区	木下 広江
筑豊地区	高崎 望
宗像地区	永松 美雪
福岡地区	福澤 雪子
	高橋よし恵
筑紫地区	松藤美由紀
久留米地区	東 幸子
筑後地区	田中 輝美

●専門三部会長理事

助産所部会	田嶋 昌枝
保健指導部会	松山まどか
勤務助産師部会	安河内静子



2023年度 委員会ほか

●常任委員会

委員会	氏名	地区
教育委員会	松藤美由紀	筑 紫
	村田 修子	北九州
	緒方 理佐	北九州
	川崎 純子	福 岡
	道園 亜希	筑 豊
	加藤 陽子	久留米
広報・渉外委員会	後藤 智子	宗 像
	村尾 和美	宗 像
	安河内 静子	筑 豊
	原武 範子	久留米
	阿部 聖子	宗 像
組織強化委員会	田中 輝美	筑 紫
	山田 葉子	北九州
	浦部きくえ	北九州
	國武麻利紗 東 幸子	筑 豊 久留米
災害対策委員会	木下 広江	北九州
	高橋よし恵	福 岡
	川野 史絵	北九州
	高崎 望	筑 豊
	榊田えみ子	宗 像
	松藤美由紀	筑 紫
	河村奈央子	久留米
安全対策委員会 医療事故調査委員会	横山 和子	筑 後
	田嶋 昌枝	北九州
	松山まどか	北九州
	安河内 静子	筑 豊

委員会	氏名	地区
妊娠・出産包括支援 委員会	豊田 晴子	筑 紫
	高崎 望	筑 豊
	中村 佳代	福 岡
	宮尾久美子	北九州
	松元久美子	筑 紫
	吉田 静	北九州
研究倫理審査 委員会	吉田 静	北九州
	福澤 雪子	福 岡
	石田 麗子	北九州
	福田 千鶴	筑 紫
	木藪 智幸	外 部

●特別委員会

推薦委員会	神崎 秀子 田中みちえ 益永 孝子
会館整備特別 委員会	佐藤 香代 吉田 静 山口美津枝 阿部 聖子

●子育て・女性健康支援センター

統括責任者	佐藤 香代	会 長
実務責任者	吉田 静	副会長
実務責任者補佐	木村 亜矢	宗 像
構成員	岡村 咲子	北九州
	松本由美子	久留米
	上田 良恵	筑 後

●公益社団法人 日本助産師会 役員

- ・九州沖縄地区 理事 森 伴子(宮崎県)
- ・福岡県 代議員 佐藤 香代、田嶋 昌枝、田中 輝美



水と、空気と、睡眠と。



世界に誇れる羽毛ブランド HARUO DOWN

いい羽毛からしか、いい羽毛ふとんは生まれません。



無料 睡眠セミナー

東洋羽毛では「睡眠健康指士」の資格を有した社員が講師を務める充実したセミナーをご用意しています。正しい寝姿を得て睡眠負債を解消し、イキイキと健康的な毎日を過ごすお手伝いをさせていただきます。

今よりもぐっすり、幸せな毎日のためのヒントがきっと得られるはずです。睡眠セミナー講師を無料で派遣いたします

<お役に立てる主な研修>

- ★ 医療安全対策研修 睡眠不足とヒューマンエラーの関係や、交差勤務における睡眠のリスクなど
- ★ メンタルヘルス研修 労働者におけるストレスと睡眠の関係
- ★ 学校保健委員会 「学力」や「部活動」、「スマホ・ゲーム」と睡眠の関係
- ★ 高齢者の睡眠ケア 高齢者の睡眠マネジメントや、これだけは死守してほしい生活習慣



東洋羽毛九州販売株式会社

福岡営業所

〒812-0062 福岡県福岡市東区松島1-15-28 ☎0120-104-557

ママと赤ちゃんのコンビニエンス

産科用品の自動販売機

院内サービスショップとして
24時間いつでも利用いただけます。

GLORY
天翔販売機 AE-20V

- 1台で90品目販売、豊富な品揃えができます。
- 販売価格は5,000円まで。もちろん、千円紙幣も使えます。
- 売上集計もワンタッチで、ジャーナル印字も使えます。

陳列コラムを
回転させながら
商品が
選べます



投入金額以内の
陳列コラムの扉を
1つだけ開けて商品
を取り出せます



外形寸法: (W×D×H)
800×685×1830mm・重量150kg

企画・発売元
SEBE セベ産科用品株式会社
〒812-0016 福岡市博多区博多駅前4丁目11-11 TEL(092)472-4316

産褥社 (胎盤処理)

〒811-1313

福岡県福岡市南区日佐3丁目
34-16

TEL : 092-581-6588

代表 : 村上 士朗



ホームページ会員登録のお願い

会員登録がお済みでない会員におかれましては、登録をお願いいたします！

手順は、福岡県助産師会 HP⇒助産師の方へ⇒会員登録について⇒会員登録フォームに必須事項の入力となります。これまで、日本助産師会事務局から福岡県助産師会会員の皆様への情報提供手段として、地区理事や各部会長を通して伝達しておりましたが、2022年9月より福岡県助産師会ホームページ内「会員ページ」に掲載することになりました。会員ページにログインされますと、観覧制限しているページを見ることができます。

会員募集

一般社団法人 福岡県助産師会では、会員を募集しております！！

ご友人や職場の方をお誘いし、一緒に活動してみませんか？

入会をご希望される方は、下記 QR コードより福岡県助産師会ホームページにアクセスし、助産師の方へ⇒入会案内のページにお入りください。または、下記担当者への連絡をお願いいたします。



【福岡県助産師会 会計 山口美津枝】

住所：〒807-1134

北九州市八幡西区茶屋の原 4 丁目 1-12

電話：090-9607-3331

メールアドレス：3enyanko@gmail.com

おひとりでも多くの皆様の入会を心よりお待ちしております。



【編集後記】

今年度1回目のニュースレターです。今年度も会員の皆様の活動を発信し共有できるツールになればと思っています。とくに今号は会員をはじめとした助産師の活動を感じられる内容になっています。1年前にホームページもリニューアルされ、よりタイムリーな情報発信が出来るようになりました。ぜひご覧になりご活用ください。

広報・渉外委員 後藤・村尾・安河内・原武・阿部

一般社団法人 福岡県助産師会 ニュースレター 第82号 2023年6月
発行人 一般社団法人 福岡県助産師会 会長 佐藤 香代

〒810-0014 福岡県福岡市中央区平尾 1-3-41

電話・FAX 092-521-2025 <https://jyosanshi.net>



